

名称	なかじま自然薯園
代表者	代表 <small>なかじま ゆういち</small> 中嶋 雄一
所在地	牧之原市東萩間
キャッチフレーズ	優良系統を守り、ブランド化する市内唯一の自然薯専作農家

経営概要

(1) 設立の経緯

茶の複合作物として祖父が始めた自然薯栽培を継承する三代目の経営者です。

父の代に専作化し、平成 17 年に雄一氏が親元就農しました。就農直後から連作障害回避のため、輪作(3 年栽培～1 年休耕)を導入し、生産の安定化を図っています。



自然薯を持つ中嶋さん

平成 22 年に経営移譲されてからは販売にも力を入れており、ホームページを開設し、販路開拓に努めました。

その結果、静岡市の老舗とろろ専門店をはじめ、全国で飲食店との契約販売を開拓するとともに、大手ショッピングモールに出展すると「その他野菜」部門で週間ランキング売上第一位を獲得するなど、「なかじま自然薯園」のブランドは着実に浸透しています。

農林事務所は、6 次産業化の専門家派遣などを活用し、ブランド構築のための支援を行いました。

(2) 経営の特色

平成 18 年から静岡県自然薯研究会から優良系統「静岡 60 号」の種いも生産の管理を委託され、形質の維持・増殖の中心的な役割を担っています。

当系統は本県が作出したもので、在来種に比べ色が白く、粘りがあり、優れた芳香を持つことから、他産地との差別化が図られています。

牧之原市の自然薯生産は、県全体の約 4 割を占めており、当園は牧之原自然薯産地のブランドイメージを牽引する存在となっています。



直売所と自販機

(3) 今後の方向

周辺の遊休農地を借りて、年々規模拡大を図っています。(現在 55 a)

自宅直売所敷地内に冷蔵自動販売機を設置し、無人販売に取り組むなど、今後も新たな販売手法の開拓に取り組むとともに、利益率の高い種いもの販売拡大にも取り組んでいきたいと考えています。

(平成 30 年度 ふじのくに未来をひらく農林漁業奨励賞)